

令和2年度第2回山元町総合教育会議 議事録

- 1 開催日時 令和2年10月23日（金） 午後1時30分から午後2時45分
- 2 開催場所 山元町役場2階 第2会議室
- 3 出席者 別紙「出席者名簿」のとおり
- 4 概要 以下のとおり
 - (1) 開会
 - (2) 開会の挨拶
 - (3) 議題
 - ①新型コロナウイルス感染症対策に伴う冬季休業日の短縮について
資料1に基づき説明（説明者：大和田教育総務課長）
 - ②震災遺構中浜小学校の入館実績と今後の取組の方向性等について
資料2に基づき説明（説明者：佐山生涯学習課長）
 - ③深山山麓少年の森拡張・改修事業の概要について
資料3に基づき説明（説明者：佐山生涯学習課長）
 - (4) その他
 - (5) 閉会

1 開催にあたり【司会：大和田教育総務課長】

ただいまから、令和2年度 第2回山元町総合教育会議を開会いたします。
開会にあたりまして、山元町長 齋藤 俊夫よりあいさつを申し上げます。

2 あいさつ【山元町長：齋藤俊夫】

本日は、今年度2回目となる総合教育会議にご出席いただきありがとうございます。ごさいます。

また、委員の皆様には、日ごろより、教育行政全般にわたりご理解、ご協力を賜っておりますことに改めて感謝申し上げます。

気温も落ち着き、食欲、読書、スポーツの秋となり、国の「GOTOトラベル」により、観光地は久しぶりに多くの人で賑わい、地域経済を後押ししておりますが、コロナ感染症については、連日、全国各地で、家庭内感染、クラスターを中心に、感染者の報告が続いているところです。

残念ながら、本町においても、今月、3名の感染者が確認されたところでありますが、学校関係、福祉施設等との関連はないとのこと。児童生徒及び町民の皆さまには、引き続きの感染拡大防止への高い意識と、日々の「新しい生活様式」の実

践をお願いしたところです。

さて、コロナ感染症の影響により、臨時休業など想定外の1学期となった町内小・中学校ですが、短い夏休み後の2学期は、各学校で感染症対策と工夫を重ね、文化祭や学習発表会、修学旅行も実施できたということで、校長先生はじめ先生方には、感謝の思いでいっぱいであります。子どもたちにとっても、コロナ禍においての思い出深い行事になったものと思っております。

また、コロナ感染症の影響で延期していた震災遺構中浜小学校についても先月26日に開館を迎えることができ、マスコミ報道効果も功を奏し、連日、多くの皆様にお越しいただいております。この関係で夢いちごの郷にもお越しいただく方も多く、売り上げも概ね2割増となっている状況であり、また、オープン以来、来月の10日過ぎには来場者が100万人に達する見込みであります。震災遺構については、今後、県内はもとより、自然災害から命を守る防災教育の拠点となるよう、全国に情報発信して参ります。

このように、コロナ感染症の影響は、社会全般にわたり、町民生活にも大きな影響を及ぼしておりますが、本町ではスピーディーな経済対策に取り組み、地域経済の活性化等を図るべく町独自の支援事業を進めて参りました。

なお、来月予定されておりました「ふれあい産業祭」について、このような状況から、いち早く中止を決定しましたが、全てのイベントがこのまま中止や延期となりますと、沈んだ空気や気持ちが更に重くなりかねません。そこで、「ふれあい産業祭」に代わるイベントをという要望もございますので、このようなことも検討した中で、古来より疫病対策に使われてきた「花火」を年末に打ち上げ、コロナ感染症の終息を願い、新しい年の無病息災を祈念するようなひとときを確保したいと担当課と詳細を詰めているところです。内容が決まり次第ご案内をいたします。

引き続き、ウィズコロナ時代の中で、リスクに向き合いながら、従前の生活に近づける工夫をしながらも、気を緩めることなく、町民の命と暮らしをしっかりと守って参りたいと考えております。

本日は、コロナ感染症による小・中学校冬季休業の短縮や震災遺構中浜小学校の今後の取組の方向性等について、委員の皆さまとともに、意見交換を行いたいと考えておりますので、忌憚のないご意見をいただきますようお願い申し上げ、開会の挨拶といたします。

よろしく願いいたします。

－以下議事－

3 議 題

【司会】（大和田教育総務課長）

ありがとうございました。

それでは、次第に基づき会議を進めさせていただきます。

会議の議長については、運営要綱第4条の規定に基づき、齋藤町長にお願いいたしますので、よろしくお願いいたします。

【議長】（齋藤町長）

それでは、議長をお預かりしましたので、進めさせていただきます。

議題の（1）新型コロナウイルス感染症対策に伴う冬季休業日の短縮について、事務局から説明をお願いします。

【説明】（大和田教育総務課長）

はい。それでは、「新型コロナウイルス感染症対策に伴う冬季休業日の短縮」について、ご説明いたします。

お配りしております資料1をご覧ください。

まず、これまでの対応ですが、3月2日から学校の臨時休業が始まり、3月は16日間、4月は11日間、5月は18日間、計45日間の臨時休業となりましたが、4月8日から14日までの5日間は入学式や始業式を行い、授業を再開しました。

また、授業時数の確保のため、夏季休業を16日間短縮しておりますが、授業日は差し引き△29日となっております。

この間、登校日を12日間設けておりますが、授業時数にカウントできないため、△29日ですが、授業の進捗としましては、実質△17日となっております。

次に、10月1日時点での不足時数見込みについてですが、10月1日以降の見込み時数、残授業時数、今後実施予定の行事時数、授業理解等のための必要時数、差し引きとなっております。差し引きでマイナスとなっているところが、不足する時数となっております。

坂元小学校について、中止した行事は、運動会、持久走大会等で、今後実施予定の行事としては、学習発表会、卒業式等で、不足時数は0となっております。夏季休業日の短縮と行事時数等の見直し、削減に伴い、年間としては予定通りに回復すると見込まれております。

山下小学校について、中止した行事は、運動会、交通教室、交通パレード、縦割り登山等で、今後実施予定の行事としては、学習発表会、避難訓練、みやまフェスティバル、卒業式等で、不足時数は0で年間としては予定通りに回復すると見込まれております。

山下第一小学校について、中止した行事は、運動会等で今後実施予定の行事としては、修学旅行、蔵王合宿、お祭り集会、持久走大会、卒業式等で、6年生で時数が不足しておりますが、年間としては回復する見込みです。

山下第二小学校について、中止した行事は、運動会、芸術鑑賞教室、音楽会等で、今後実施予定の行事としては、学習発表会、大掃除、卒業式等で、4年生、5年生、6年生で時数が不足しておりますが、年間としては回復する見込みです。

坂元中学校について、中止した行事は、PTA総会、懇談会、郡中総体、郡陸上大

会、郡駅伝大会等で、今後実施予定の行事としては、坂中祭、山下中との交流会、卒業式、修了式等で、2年生、3年生で時数が不足しておりますが、年間としては回復する見込みです。

山下中学校について、中止した行事は、郡中総体、合唱コンクール等で、今後実施予定の行事としては、修学旅行、文化祭、閉校式、卒業式等で、2年生、3年生で時数が不足しておりますが、総合的学習の時間以外は年間で回復する見込みです。

また、各学校において、内容を変更して行った行事として、小学校の学習発表会や中学校の文化祭については、人数制限や時間制限を行い実施しており、修学旅行について、小学校は当初の予定通り実施しましたが、中学校については、行先変更や日数の短縮を行い実施しております。

冬季休業日の短縮についてですが、2市2町で統一することで考えており、案としては、年始の休業日を3日間短縮し、1月7日までを1月4日までとし、3日間の時数を確保したいと考えております。

各学校からも、履修したという実績だけであれば、冬季休業日の短縮がなくてもよい学校もあるが、学習の遅れを解消しようと、かけあしで進めたところもあるため、学習の定着が十分図れているとは言い難いことから、冬季休業日の短縮はやむを得ないという意見でした。

以上のことから、年間の必要時数確保のために冬季休業日を3日間、短縮したいと考えるものです。

説明については、以上でございます。

【議長】（齋藤町長）

只今、新型コロナウイルス感染症対策に伴う冬季休業日の短縮について説明がりましたが、この件について何かあれば、ご意見をお願いいたします。

【教育委員】（大内委員）

はい。各学校の10月1日以降の見込み時数にばらつきがあるのは、なぜでしょうか。

【事務局】（大和田教育総務課長）

各学校において、9月までに実施した授業時数にばらつきがあるためです。

⑤がマイナスになっており、授業時数の不足が見込まれている学校においても、冬季休業日の短縮や行事を削減し授業をすることで、年間で全ての時数の消化は可能であると各学校から意見を受けているところです。今後、冬になることから、大雪やインフルエンザの流行、新型コロナウイルス感染などで臨時休業も心配されることから、余裕を持った計画にしたいと考えております。

【教育委員】（大内委員）

各学校の不足時数見込みの表が分かりづらいです。

各学校の表を見比べた時に、授業理解等のための必要時数などに違いがあるが、どういった理由からなのでしょう。

調査に回答した際の各学校の理解の仕方が違っていたのではないのでしょうか。

【教育委員】（菅野委員）

各学校の不足時数見込みの表についてですが、分かりづらい表になっております。本来、一番上に年間で実施しなければならない時数を記載し、次に、これまで実施した授業時数を記載し、差し引きで今後実施しなければならない授業時数が出てきます。次に、今後、日数的に実施が可能な授業時数や行事に必要な時数を記載し不足時数見込みを計算するような表のつくりであれば分かりやすかったと思います

最終的に⑤が0となっているところは、実施しなければならない標準時数をクリアしていて、マイナスになっているところは、標準時数をクリアしておらず時間が足りないという解釈でよろしいのでしょうか。

【事務局】（大和田教育総務課長）

はい。

【教育委員】（菅野委員）

そして、⑤がマイナスになっていても、冬季休業日の短縮などで補われ、加えて、今後、インフルエンザなどによる学級閉鎖があったとしても、標準時数には達する見込みであるという解釈でよろしいのでしょうか。

【事務局】（大和田教育総務課長）

はい。

【教育委員】（大内委員）

インフルエンザなどは、今は想定するのが難しいですからね。

【教育長】（菊池教育長）

はい。難しいので、少し余裕を持たせてということです。

2市2町の教育長で話し合いをした時に、当初は冬季休業日の短縮を5日程度で考えていましたが、各市町の学校で授業の進捗状況からうまく回復出来ているということで、3日間で大丈夫ではないかということです

【教育委員】（古泉委員）

資料が分かりづらいとは感じていました。「授業理解等のための必要時間数」が学校によって差があるのは、各学校の先生方の解釈の違いによるものではないかと考え

ながら目を通しておりました。最終的には、授業時数が間に合うのではないかということでしたので、先生方にしっかり進めて頂いているということが確認できました。

【教育委員】（菅野委員）

冬季休業日を3日短縮することはよろしいのではないかと思います。春休みに授業を入れることは不可能ですので、冬季休業日を短縮しておいて、余裕を持っておくということだと思います。

【教育委員】（大内委員）

特に異議ありません。

【議長】（齋藤町長）

数字に見方、捉え方についてのご意見をいただきましたが、全体としては、過不足がないような対応がなされているということで、改めてご理解を賜りたいと思います。

また、今般のニュースで不登校の話がありましたが、本町の状況はいかがでしょう。

【事務局】（大和田教育総務課長）

はい。町内小・中学校の昨年度の不登校の状況ですが、県よりもプラス38%、全国よりもプラス76%という状況です。小学校だけで見ますと、県の平均を下回っておりますが、中学校で多かったということです。しかし、昨年度の同時期と今年度を比較すると、今年度は不登校者数が減っている状況です。

【教育長】（菊池教育長）

補足いたします。昨年度の町内の小学校の不登校出現率は県平均を下回っています。ただし、中学校は県の平均を大きく上回っています。学校規模が大きくないので、人数的には、他の市町に比べると多くありませんが、在籍している子どもの数から比べると出現率は非常に高かったです。今年度については、先ほど課長からもご説明しましたが、現在、不登校者は中学校で昨年度の半分以下、小学校は昨年度と同じ位ですが、不登校に至っていない準不登校者や別室登校者が昨年度より多い状況ですので、そこが気になっているところです。中学校は今まで高水準で推移しておりますので、その辺りを意識して、学校での子どもたちへの対応、別室登校の体制、ケアハウスとの連携などに力を入れて、新たな不登校者を生まないよう頑張っているところです。

【議長】（齋藤町長）

今の不登校者の状況説明について、ご意見等ありますでしょうか。

（「なし」の声あり）

【議長】（齋藤町長）

その他全体的にご意見等ありましたらお願いします。

【教育委員】（菅野委員）

はい。先の見えないコロナ感染症ですが、その対策をしたうえで、子どもたちが行事等を実施できるように工夫していただきたいと思います。修学旅行や学習発表会、運動会等を通して、子どもたちが切磋琢磨する、そのような効果、期待は大きいものがあります。次年度の計画も作成する時期ですので、コロナ感染症対策を講じながら、子どもたちが有意義な学校生活を送れるよう私たちも努力していかねばならないと思います。以上です。

【議長】（齋藤町長）

委員の皆様方からいろいろご意見を頂戴いたしましたが、菅野委員がおっしゃるとおり、先が見えない中での学校生活ということで、いろいろな慣例はございますが、教育委員会、町として学びの環境や保証をしっかりとサポートしていく必要があると考えております。最後に確認していただいたとおり、年度当初の長期に渡る臨時休業により授業時数の確保が課題となりましたが、学校現場の努力によって、なんとかクリアできるまでになったということで安堵しているところです。引き続き、各学校長をはじめ、先生方のお力添えをいただくことをご期待申し上げながら次に移りたいと思います。

【議長】（齋藤町長）

次に、（２）「震災遺構中浜小学校の入館実績と今後の取組の方向性等について」事務局から説明をお願いします。

【事務局】（佐山生涯学習課長）

はい。それではご説明いたします。

資料２－１をご覧ください。震災遺構中浜小学校については、９月２６日から一般公開を始めています。

資料の中段に入館者の現状ということで、１０月１２日現在の数値を掲載しております。この時点では入館者は３，１６５人の実績でした。記載にはありませんが、昨日現在の数値は、４，０８４人で、日平均に換算しますと、１６３人です。配布資料は１０月１２日現在ですので、傾向として捉えていただきたいと思います。

資料中段の円グラフにもありますとおり、要約すると一般の入館者が大部分を占めております。それから、次の段に居住地の内訳を記載しておりますが、こられた方が町内なのか、県内なのか、県外なのかということをお口の受付の時に、その都度確認しておりますが、その際に得られたデータとなります。円グラフを確認いただくと分

かるとおり、県外者を含む町外者の入館が84%を占めております。ただ、この数値には、9月19日、20日のプレオープンの数値も入っております。プレオープンには町民を対象としましたので、それを除くと実質95%の方々が町外からお越しいただいているといったことが推察されます。

次に、日別の入館者をグラフ化してみました。当然、土・日曜日の入館者が多いのはご覧のとおりです。雨天時は入館者が少ないということです。今の時点では、団体も増えてきておりますが、一般も来館者については、天候に大きく左右されるということが分かりました。

次に、今後の取組の方向性について簡単にご説明します。

4つの観点から方向性を決めております。「防災教育」「震災伝承」「情報発信」「交流・連携」です。

1点目、「防災教育」に関しましては、町内小・中学校生を対象とした防災・減災教育への活用をはじめ、教職員への研修機会の提供や自治体、企業、団体等の防災・研修旅行等に活用していきたいと考えております。現時点の入館者の内訳では、学生の占める割合は非常に少なかったわけですが、これからは小・中学生や高校生を招致することで、割合が変わってくるだろうと予想しています。

2点目、「震災伝承」については、震災経験の少ない世代への記憶・記録の継承活動や「やまもと語りべの会」との連携による広域的な伝承活動を進めていきたいと考えます。

3点目、「情報発信」については、オンライン見学のほか、旅行代理店へのPR、あるいは、新聞、テレビ等を通じた広報活動を進めます。

4点目、「交流・連携」については、夢いちごの郷などの町内の文化観光施設あるいは、3.11伝承ロードとの連携を通じて、引き続き、事業の継続性が図られるよう取り組んでいきたいと考えております。

次に、資料2-2をご覧ください。

資料2-2については、1ページから7ページまでは、教職員に対するアンケート結果です。次のページからは、町職員に対するアンケート結果となります。

研修と同時にアンケートを実施し、集計と検証を行ったものです。

教職員研修アンケートの研修結果についてですが、主なもののみご説明します。

教職員に関しては、研修参加者は108人でアンケートに回答していただいたのは、86%にあたる93人でした。「設問2」企画内容にありますとおり、「見学の内容は必要性を感じるものでしたか」については、「大いに感じる」59%、「感じる」38%、全体として9割以上が必要性を感じたことがわかりました。このことから、今後の活用が十分に図れる可能性があり期待されるところでございます。

続いて2ページをご覧ください。中段(3)「研修を通じて、子どもたちに何を伝えたいと思いましたか。」ですが、これは、特徴的な意見を抜粋しておりますが、「津波の怖さ、避難の重要性、防災の日頃からの取組」「命の大切さ、人と人とのつながり」など多様な意見を頂戴しております。このことから、検証の結果としましては、

小中学生への防災教育の場として、大いに活用できると受け止められたことが分かりました。今後工夫のある取組を行うことによって、教育旅行の誘致は十分に可能性があると判断しているところです。

次に、町職員のアンケート結果についてですが、研修参加者は145人でした。そのうち86%にあたる125人から回答をいただいております。

先ほど説明させていただいた教職員同様、町職員についても9割以上の職員がその必要性を感じたということが分かりました。今後、他の自治体の職員研修の場としても活用できるよう努めていきたいと担当課として考えております。

次に7ページをお開きください。設問4の(1)「中浜小学校を後世に残す取組が有効と感じますか」について「大いに感じる」37%、「感じる」48%で、今後の防災教育の重要なテーマであることは言うまでもなく、むしろ全国からの多くの心温まる支援に対する恩返しにも資すると考えているところでございます。

9ページをご覧ください。設問8「その他」に自由記述欄を設けました。この中には、文面以外にも多くの記述がある中で、最終的な検証といたしましては、観光面での連携やオンラインへの対応、ガイド方法に関することなど多様な意見が寄せられたので、担当課としては着手可能なところから、工夫や改善を図るための検討を引き続き進めていきたいと考えております。

説明は以上です。

【議長】(齋藤町長)

はい。事務局から震災遺構中浜小学校の入館実績と今後の取組の方向性等について説明がありました。今のところ、マスコミの取り上げもございまして一定のご利用はありますし、今後については学校教育の関係で来年度以降、修学旅行等での利用も期待できるのではないかと思います。

委員の皆様から確認やご意見等ありましたらお願いします。

【教育委員】(古泉委員)

はい。1日の来館者数の説明がありましたが、当初の予定と比べるとどのような状況でしょうか。

【事務局】(佐山生涯学習課長)

当初の予定通りと考えております。このままの推移でいきますと、予想よりは多いですが、営業日数が昨日時点で25日間しか経過していないというところから、今後は、少し低減していただろうと見込んでおります。そのようなことで、大きく捉えた場合は、当初の予定通りで落ち着くのではないかと考えております。

【教育委員】(菅野委員)

はい。何回か見させていただきましたが、防災の施設、震災遺構の施設としまして、

よく出来上がったと思っています。映像やジオラマ等もありますし、ただ見るだけでなく、説明が聞けるということで理解しやすかったです。見て津波の恐ろしさが分かりますし、話を聞くと、また理解が深まっていくと思います。今後は、社会見学などの形で見ていただく価値はあると思いますので、各学校や教育委員会など県内は勿論、県外にもPRをしていただき、見ていただく、おいでいただくことが良いのではないかと思います。

また、町内の他の施設とのつながりもあれば更に良いのではないかと考えておりました。

【教育長】（菊池教育長）

生涯学習課で、震災遺構中浜小学校の公開が始まったということでチラシと無料の入館券を県内の小・中学校に配布しております。

なお、私は、仙台管内の教育長会議で、ガイドブックを配布し紹介しております。

また、大河原教育事務所管内には、教育長会の日程が合わなかったため、小・中学校の校長会の中で時間をいただいて紹介をしております。

小・中学校の防災教育の中にうまく位置付けしていただいて活用していただくと良いのではないかと話しております。

県外については、県の観光関係の教育旅行のご紹介などにも入れていただいて、修学旅行などで活用していただけるように今後もお願いしていきたいと思います。

【議長】（齋藤町長）

補足させていただきます。まず、観光PRの関係では、県の観光課の専門官が、前副町長の樋口さんで、県に戻ってから、この震災遺構の関係で2度程度現地に来ていただいて、熱心に対応していただいておりますので、期待できるのではないかと思います。

それから、震災遺構に来た子どもたちの町内での受け入れについてですが、夢いちごの郷のフードコートが来年早々にオープンすることを期待しておりますので、人数次第ではありますが、一定の受け入れ態勢は整うのではないかとということと、これからご説明申し上げる深山山麓少年の森の整備内容によっては、また、町内に足を止めていただく対応も順次可能となっていくのではないかと考えます。

アクセス面では、県道相馬互理線の工事が進んでおります。南から延伸している供用区間は、年内には旧坂元駅まで整備されます。早ければ来月中にも供用開始が期待できるかと思いますので、震災遺構中浜小学校へのアクセスがスムーズになるのではないかと考えます。

いずれにしても、備えと運が重なった震災遺構であり、防災教育の鍵を握る貴重な地域資源でありますので、引き続き、内外に情報発信する中で防災教育として、しっかり歴史に名を刻めるように更なる取組など対応していきたいと思います。

【議長】（齋藤町長）

次に、（3）「深山山麓少年の森拡張・改修事業の概要」について、事務局から説明をお願いします。

【事務局】（佐山生涯学習課長）

はい。それでは説明いたします。

資料3をご準備願います。深山山麓少年の森については、駐車場不足等の解消や経年劣化による遊具の修繕等を目的としまして、施設の拡張及び改修を行う予定であります。

②の表のとおり、現時点では、基本計画を進めている段階です。これ以外には、今年度は、基本設計や地質調査を進めていく予定です。

その後、資料にもありますとおり、実施設計や整備工事などを経て、最終的には令和5年度の供用開始を目指して進めているということで、ご理解をお願いします。

③として、今年度行う業務の概要です。枠で囲んでありますが、ワークショップを今後2回程度、実施しようと考えております。目的については、記載のとおりです。

ワークショップによる意見を集約しながら、同時に関係団体との意見交換会を適宜開催し、基本的な土地利用計画を定めていく予定です。なお、坂元地区周辺の遊休地やつばめの杜中央公園等との機能分担を図ることが大切であると捉えております。

④事業計画平面図をご覧ください。緑の改修エリアについては、旧マウンテンバイクコースが敷設されていたところですが、現在は、使用休止になっていますが、今後の検討の方向性としては、例えば、自然観察路やトレッキングコースなどの検討を進めて参りたいと考えております。

次に、紫の改修エリアについては、現在、駐車場として整備してあるところですが、今後、バスの駐車場の利用を検討していきたいと考えております。現在は、入口に隅切りがないために大型バスが入れないという非常に不便な状況となっております。

次に、黄色のエリアですが、昨年度、町が土地を購入した拡張エリアになります。面積については、約8千㎡です。この土地の活用については、駐車場不足の解消やキャンプ場など新たな施設の検討も加えていきたいと考えています。また、切り離された三日月型の土地がありますが、高速道路から見える施設の案内看板の設置を軸に検討をして参ります。

次に、茶色の改修エリアですが、既存のBMXコース改修など既存の施設の改修が中心になると捉えています。

いずれにしても、住民の方々の意見を聞きながら、また、最終的には行政で捉える大切な視点・観点もありますので、うまくその辺りを集約しながら工事に結び付けて参りたいと考えております。

説明については、以上です。

【議長】（齋藤町長）

はい。只今の説明に対しまして、皆様の方からお気づきの点等ございましたらお願いいたします。

【教育委員】（大内委員）

はい。有効的に活用できるような施設づくりをお願いします。

【教育委員】（菅野委員）

私もこの施設を随分使わせていただいております。深山山まで登山すると片道45分から50分程度ですが、小さな子どもはなかなかそこまでいけないと思います。しかし、旧マウンテンバイクコースが3kmから4km程度であれば、小さな子どもも親子と一緒に散策やハイキングができるのではないかと思います。説明を聞いておりました。

また、キャンプ場ということになれば、長い時間滞在することになりますので、アスレチック的なものを設置するなど、魅力ある有効的な施設ができれば良いのではないかと思います。

【事務局】（佐山生涯学習課長）

はい。大変貴重なご意見ありがとうございます。設計するのは職員であって、大人の立場であります。実際使うのはやはり、子どもであったり、親であったりしますので、そこは、非常に大切なポイントであると捉えております。

この資料の中で、ワークショップや関係団体との意見交換とありますが、その軸として、考えているのは、協働教育で子育てに関わっている団体の方々です。親の視点や子育ての視点での意見を取り入れながら進めていくことが、結果として利用率が高まることを期待し、計画を進めて参りたいと考えております。

【教育委員】（古泉委員）

子どもが小さい時に行っておりました。私は坂元地区ですので、子どもだけで遊びに行くには不便なところにあります。例えば高校生の子どものだけでも坂元からも遊びにいけるルートがあればよいなと思っておりました。

【議長】（齋藤町長）

ありがとうございました。

時間になりましたので、各委員からご意見をいただきましたが、先ほどご説明した計画を進めていく中で、将来的には、駐車場整備を始めとしていずれも緑の斜面に囲まれた自然環境と調和のとれたアスレチック等の設置など、仙台都市圏の方々との交流の場に貢献できる施設に生まれ変わればと期待しているところであります。

本日本日予定しておりました議題については以上となりますが、その他、委員の皆様から何かありましたらお願いいたします。

(「なし」の声あり)

【議長】(齋藤町長)

事務局からお願いします。

【事務局】(大和田教育総務課長)

はい。事務局からは、「みのりプロジェクト推進事業の学校教育充実推進大会」についてです。みのりプロジェクトについては、昨年度から10年間の事業計画で、小・中学校の再編と並行して進めております。今回、11月27日に広く町民に周知して学校教育の充実を図ることと、来年度から予定しているコミュニティースクールについての理解を深めるために、推進大会を開催します。教育委員の皆様にもご案内申し上げますので、ご出席をお願いいたします。以上です。

【議長】(齋藤町長)

はい。本日は大変貴重なご意見ありがとうございました。進行を事務局にお返しいたします。

【事務局】(大和田教育総務課長)

はい。ありがとうございました。

以上を持ちまして、令和2年度 第2回山元町総合教育会議を閉会いたします。

大変ありがとうございました。